



リソース管理と SIP の統合

コールエンドポイントは、IETF RFC 3312 に従って、メディア リソースを使用する前に、リソースがこのメディア ストリーム用に完全に予約されているかどうかを判別できます。この機能は、リソース予約プロトコル (RSVP) などの別の Quality of Service (QoS) シグナリングを使用する場合に有益です。この機能を実装するために、RFC 3312 は、メディア ストリームの詳細度に 3 つの新しい a= 行を定義しています。エンドポイントは、これらの行を使用して、新しい Session Description Protocol (SDP; セッション記述プロトコル) を採用するための予約情報と前提条件を通知します。

Cisco Unified Border Element (SP Edition) は、以前は Integrated Session Border Controller と呼ばれており、このマニュアルでは通常 Session Border Controller (SBC; セッション ボーダー コントローラ) と呼びます。



(注)

Cisco IOS XE Release 2.4 以降では、この機能は統合モデルだけでサポートされます。

リソース管理と SIP の統合サポートの機能履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Release 2.4	この機能は、統合モデルのサポートとともに、Cisco IOS XR に追加されました。

内容

このモジュールの構成は次のとおりです。

- 「リソース管理の統合に関する制約事項」(P.1015)
- 「リソース管理の統合に関する情報」(P.1016)

リソース管理の統合に関する制約事項

リソース管理の統合に関する制約事項は、次のとおりです。

- この機能を実装すると、Cisco Unified Border Element (SP Edition) は、メディア ステートの報告または前提条件の生成を行いません。前提条件が存在するかどうかを検出し、存在する場合は、必須の前提条件がすべて満たされているかどうかを調べるだけです。
- この機能は SIP 限定機能であり、H.323 または SIP-H.323 インターワーキングではサポートされません。

- RFC 3312 シグナリング プロシージャでは、必須の前提条件が満たされている場合に限り、メディアの再ネゴシエーションが行われます。

リソース管理の統合に関する情報

SIP メッセージの Require ヘッダー フィールドまたは Supported ヘッダー フィールドに前提条件タグが存在する場合は、Cisco Unified Border Element (SP Edition) はメッセージのパススルーを許可します。また、Cisco Unified Border Element (SP Edition) は、ステートと前提条件を示す未変更の SDP のパススルーも許可します。

オファァの処理に失敗すると、基盤の SIP メッセージが拒否されるか、コールが廃棄されます。アンサーの処理に失敗すると、失敗の理由に関係なく、コールが廃棄されます。